

3 【別紙様式3】

再評価実施事業調査書

番号	1	事業名	地域自主戦略 交付金事業		路線又は箇所名等		国道296号 八千代バイパス		
事業所管課		道路整備課		事業主体			千葉県		
事業化年度	平成2年度	用地着手年度	平成3年度	工事着手年度	平成12年度	工事終了(認可)年度	平成32年度	再評価の理由	再々評価
費用便益比 B/C	2.4	総費用	116億円	総便益	282億円	基準年	平成24年	供用開始 年度	平成33年

【事業概要】

国道296号は、千葉県匝瑳市を起点とし、成田市を経て船橋市に至る延長約6.4キロメートルの幹線道路である。

八千代バイパスは、国道16号と佐倉市等との間の交通の分散を図り、国道296号の八千代市域及び佐倉市域の交通渋滞を緩和することにより、京成本線の勝田台駅やユーカリが丘駅へのアクセス性を向上させ、公共交通を支援することを目標とした、国道16号八千代市米本から佐倉市上座に至る延長5.2キロメートルの2車線道路である。

平成2年度に事業着手し、平成20年1月に八千代市側0.7キロメートル（4工区）が、平成24年3月に佐倉市側の2.2キロメートル（2工区）が供用した。

【事業の進捗状況】

	計画	H24末見込み	進捗率	H25以降
延長	5.2km	2.9km	55.8%	2.3km
事業費	97.5億円	73.5億円	75.3%	24.0億円
うち用地補償費	54.8億円	50.8億円	92.7%	4.0億円
うち工事費	42.7億円	22.7億円	53.2%	20.0億円

全線供用は、平成33年度を想定している。

【社会経済情勢等】

国道296号の交通量は約2万台にのぼり、八千代市下市場から佐倉市上志津駅入口付近までの旅行速度は平均20キロメートル以下と慢性的な渋滞が発生している。

さらに、本区間における死傷事故は4年間で298件も発生しており、地域住民の日常生活や経済活動に大きな支障となっているため、地元からの整備促進の要望も高い。

また、本道路の周辺は千葉県の基幹となる救急医療施設が集積しており、バイパス整備による搬送時間の短縮効果が期待されているところである。

平成24年3月には「ユーカリが丘」の区画整理事業に合わせ約2.2キロメートル区間の部分供用が実現し、本道路の必要性はますます高まっている。

しかしながら、市街地とその隣接地を通過するバイパスのため、地権者数が多く用地取得に長時間を要しているが、今後も引き続き、事業の進捗に努める。

【対応方針（案）】

継 続

- ・海匝地域から成田・八千代を経て京葉地域の「道路ネットワークを強化」する重要な道路
- ・「交通環境の改善」により県民生活の利便性や安全性の向上に資する。
- ・「救急医療の支援」のため、本道路の整備が重要。

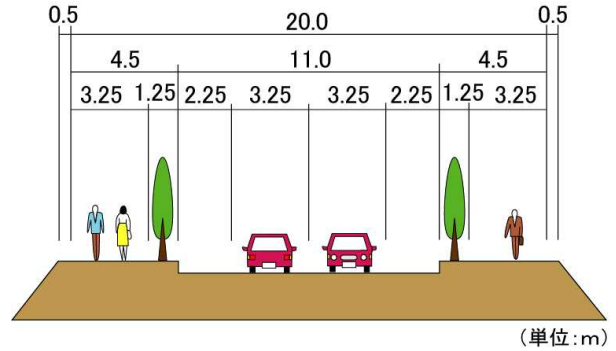
事業概要図

番号	1	事業名	地域自主戦略 交付金事業	路線又は箇所名等	国道296号 八千代バイパス
----	---	-----	-----------------	----------	-------------------

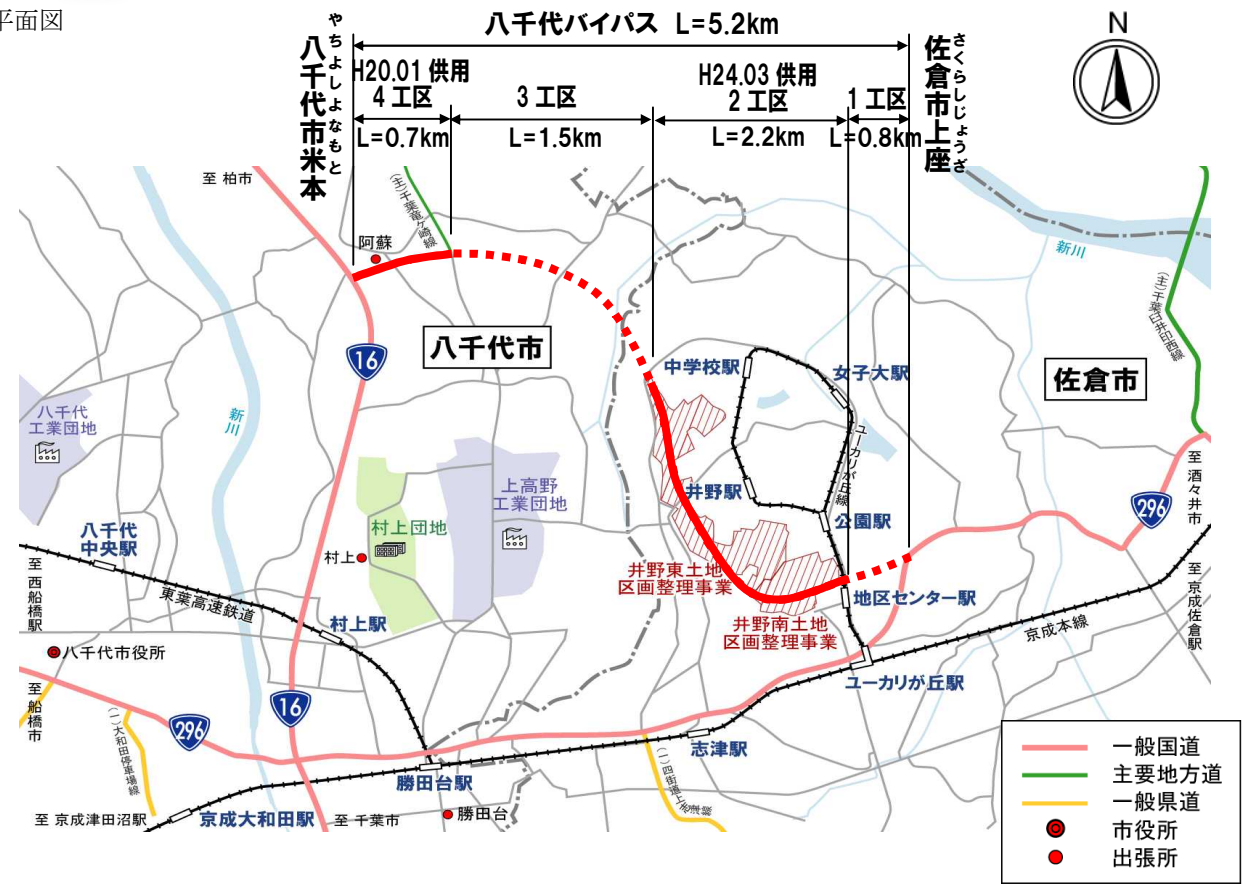
位置図



標準横断面図



平面図



【別紙様式 5】

再々評価事業に関する調書

番 号	1	事 業 名	地域自主戦略 交付金事業	路線又は箇所名等	国道 2 9 6 号 八千代バイパス
事業化年度	平成 2 年度	用地着手年度	平成 3 年度	工事着手年度	平成 1 2 年度
【再々評価（H 1 6 年度）の概要】					
再評価実施年度 (基準年)	平成 16 年度	供用開始年度	平成 28 年度	対応方針	継続
B / C	3 . 8	総費用	92 億円	総便益	347 億円
再評価時の委員会の意見及び当時の状況 ○継続することが妥当である。 ・整備効果発現のため、早期の部分供用を図る。 当時の状況 進捗率は全体 4 7 . 2 %、用地 5 4 . 2 %（事業費） 用地交渉に長時間を要し、事業が遅延している。					
再評価時の進捗状況及び再評価時想定の 5 年後の進捗状況					
		計 画	進捗状況 (H16)		
事業費		97.5 億円	46.0 億円 (47.2%)		
うち用地補償費		64.8 億円	35.1 億円 (54.2%)		
うち工事費		32.7 億円	10.9 億円 (33.3%)		
【再々評価（H 2 4 年度）の概要】					
再評価実施年度 (基準年)	平成 24 年度	供用開始年度	平成 33 年度	対応方針	継続
B / C	2 . 4	総費用	1 1 6 億円	総便益	2 8 2 億円
現在の進捗状況					
		計 画	進捗状況		
事業費		97.5 億円	73.5 億円 (75.3%)		
うち用地補償費		54.8 億円	50.8 億円 (92.7%)		
うち工事費		42.7 億円	22.7 億円 (53.2%)		
再評価後の 経過 及び 処理状況	平成 16 年 10 月 再々評価（継続が妥当である） 平成 20 年 1 月 4 工区 (0.7km) 供用（国道 16 号から千葉竜ヶ崎線間） 平成 20 年 8 月 関連する佐倉市「土地区画整理事業区域内」が事業化 平成 24 年 3 月 2 工区 (2.2km) 供用				